

会社の責任追及！ 社員の心は病むばかり！！

先日、私物携帯電話を車内において充電した東海労組合員に対して「切腹ものとは思わないのか」の発言で問題になっている大二運輸所勝見副所長は関西支社担当者に対して、「その様な発言はしていない」とまったく嘘吹いていることが明らかになりました。

社員に対して普段から「嘘は言うな」「隠蔽するな」「虚偽の申告だ」などと言っている会社・管理者自ら「大嘘」をついたことになり、さらなる「大問題」となっています。そして、当該組合員は精神的理由から10日間の休職を余儀なくされてしまいました。

今回の組合員の事象に対して「責任追及」をしたのは、勝見副所長にとどまらず、所を上げて所長以下、栗本総務科長、草崎指導科長が所内誌「轍」の中で展開しています。

「切腹もの」で問題となっている勝見副所長は東大寺の「四天王像」と「戒壇堂」について長々コメントし、「戒律」という言葉を導き出し、「私物携帯電話や喫煙のルール・・・」に無理やり結びとして引用しています。

いわば今回の「轍」のコメントは「切腹もの」の問題発言の渦中にあることからか、過去の「轍」のコメントでも「ロッカールームの空調設定を下げた者」で主観丸出し発言でも問題になった経緯を踏まえてか、意図して遠回しのコメントをしているかのように見えます。

勝見副所長は、大阪第一運輸所との副所長を兼務し、どちらの職場でも「切腹」発言に現れるような異常な労務管理を展開しています。

また、栗本総務科長は、「～ちなみに当該社員は、8月には列車を遅らせるという準事故を発生させたばかり～」と過去の事象まで持ち出し、さらに『「大二輸」にまた傷がつかました。』『会社や仲間の名誉を傷つける～』と徹底的に責任追及を繰り返しています。

先日16日、当該組合員は日勤で職場復帰しました。その組合員に対して栗本総務科長は白々しく「体調はどうですか」「何かあったら言って下さい」と自分達が繰り返した「責任追及」の言動を棚に上げて、自己保身の姿勢を露わにする対応をしています。

社員への「責任追及」をこれだけ繰り返し、何かあったら本当に責任が取れるのでしょうか！まさに会社が推進しているという「メンタルヘルス」に逆行している行為です！

会社の社員に対しての異常な「労務管理」「責任追及」が社員の心を^{むしば}蝕み、悩みを多く抱える社員が増加しています。その結果、病気になったり職場を去る社員も増えています。その圧倒的多数がユニオン組合員というのも現実です。

「メンタルヘルス」の主因は会社・管理者の「パウハラ」に起因している！

私たちは、繰り返される「異常な労務管理」「責任追及」を許さず、問題解決にむけて訴えかけていきます！